

世界 LNG 動向#112 2025 年 4 月

橋本裕*

はじめに

世界の LNG 貿易量は 2025 年第 1 四半期、前年同期比 1%増の 1.08 億トンの輸入となり、四半期ベースで過去最大を更新した。今後 5 年以上かけての空前の LNG 貿易拡大局面が始まっている。第 1 四半期の LNG 輸出面での拡大は、新規・拡張プロジェクトの立ち上がりが続く米国に集中した。

LNG 輸入側では、ガス消費量全体としては減少している欧州連合で、ロシア産パイプラインガス輸入が LNG 換算で 250 万トンと、前年同期比半減したところ、LNG 輸入が 220 万トン増加してこれを補った。2024 年は世界最大の LNG 輸入国だった中国が、2025 年第 1 四半期は LNG 輸入量を大幅に減少し、この期は日本が筆頭となった。中国では米国产 LNG 輸入が前年同期 13 カーゴからこの期は 3 カーゴに減少した。

4 月中旬、モーリタニア・セネガル沖 GTA フェーズ 1 プロジェクトが初の輸出 LNG カーゴを積み込んだ。LNG 年間 240 万トンの生産見込みとともに、両国国内市場にもパイプラインでのガス供給が配分される。

米国で LNG 生産プロジェクト開発が、規制面に加え、コマーシャル面で進展している。豪 Woodside 社主導の Louisiana LNG プロジェクトでは、Stonepeak 社が、同設備の 40%に出資することとなった。さらにドイツ Uniper と販売取引を締結した。Lake Charles LNG プロジェクトは、MidOcean Energy と 30%参画に関して HOA(基本合意)を締結した。Commonwealth LNG プロジェクトでは、Kimmeridge 傘下のプロジェクト会社の 24.1%株式を、アブダビ Mubadala Energy が取得する。フェーズ 1 設備建設中の Rio Grande LNG プロジェクトは、次フェーズの引き取り、投資のコミットメントを確保した。

欧州連合理事会は、ガス貯蔵規制の修正案を明らかにした。ガス貯蔵規則の 2 年間延長に合意しつつ、変化する市場環境に対応するフレキシビリティを織り込むものである。90%充填目標は、現在の 11 月 1 日期限でなく、10 月 1 日から 12 月 1 日の間のいずれかの時点で達成すべきものとする、加盟国は充填目標から最大 10%引き下げてもよいことを含めている。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

日本の LNG 輸入

期間	数量 (100 万トン)	価格 (/ 100 万 Btu)
2025 年 3 月	5.151	USD 11.73
2024 年 3 月	5.550	USD 12.39
2025 1Q	17.667	USD 11.96
2024 1Q	17.684	USD 13.00
年度 - 2025 年 3 月	65.874	USD 11.84
年度 - 2024 年 3 月	64.886	USD 12.51

(出所) 財務省貿易統計より計算

中国の LNG・パイプラインガス輸入

期間	数量 (100 万トン)	価格 (/ 100 万 Btu)
2025 年 3 月	4.97 + 4.19 = 9.16	USD 9.92 & 7.21
2024 年 3 月	6.56 + 4.12 = 10.68	USD 10.60 & 7.45
2025 1Q	15.51 + 13.90 = 29.42	USD 10.76 & 7.22
2024 1Q	19.69 + 13.01 = 32.70	USD 11.27 & 7.40

(出所) 中国貿易統計より計算

東アジアの LNG 輸入 (100 万トン)

	日本	韓国	中国	台湾	東アジア 4 市場計
2025 年 1 月	6.64	4.42	6.06	1.48	18.61
2 月	5.88	3.31	4.48	1.80	15.47
3 月	5.15	4.27	4.97	2.09	16.48
2025 1Q	17.67	12.00	15.51	5.38	50.56
1Q 2025/2024	-0.1%	-5%	-21%	9%	-8%

(出所) 各市場の貿易統計より計算

【アジア太平洋】

株式会社 JERA と西部ガス株式会社は、2025 年 4 月 22 日、LNG 基地の戦略的活用などに関する提携について合意したことを発表した。西部ガスが 2024 年 11 月に国内の天然ガス需要への対応や安定供給の向上などを目的に 3 号タンクの増設を含むひびき LNG 基地の能力増強を決定したことを契機に、両社の LNG 安定確保の強化などを具体的実現するために合意したものとしている。

株式会社商船三井 (MOL) は、2025 年 4 月 10 日、東京ガス株式会社の 100% 出資子会社である東京エルエヌジータンカー株式会社 (TLT) へ長期傭船される新造 LNG 運搬船に

風力補助推進システムであるウインドチャレンジャーを 2 基搭載することに TLT と合意したことを発表した。LNG 運搬船へのウインドチャレンジャー搭載は、本件が世界で 2 隻目となる。ウインドチャレンジャーは、伸縮式の帆によって、本船の燃料消費量および温室効果ガス排出量の削減に寄与している。

大阪ガス株式会社は、2025 年 4 月 21 日、Shore to Ship 方式による船舶向け LNG 燃料の供給事業を開始したことを発表した。大阪ガス泉北製造所第二工場にて、第 1 隻目として、株式会社商船三井が運航する JFE スチール株式会社向けの LNG 燃料鉄鋼原料船「VERDE HERALDO (ヴェルデ エラルド)」に LNG 燃料の供給を実施した。

川崎重工業株式会社とレイズネクスト株式会社は、2025 年 4 月 22 日、日本国内における LNG、液化水素受入貯蔵設備における平底円筒タンクを対象とした「LNG 及び液化水素タンク事業に関する協業覚書」を締結した。

中国の Order Group (奥徳集□) は、2025 年 3 月 26 日、Glencore Singapore 社との間で、中期の LNG 供給に関する契約を締結したことを発表した。

マレーシア PETRONAS 社は、2025 年 4 月 22 日、PETRONAS LNG 社がベトナム PetroVietnam Gas (PV Gas) 社向けの初の LNG カーゴ引き渡しを完了した、と発表した。サラワク州ピントゥル PETRONAS LNG 設備から、バリア-ブンタウ省 Thị Vải LNG 基地に引き渡された。PETRONAS の MISC 子会社から傭船された LNG 輸送船舶 Seri Ayu で輸送された。

マレーシア PETRONAS は、2025 年 4 月 10 日、Malaysia Petroleum Management (MPM) を通じて、ベトナム PETROVIETNAM との間で、PM3 コマーシャル・アレンジメント・エリア (CAA) に関して、生産分与契約 (PSC) ・上流ガス販売契約 (UGSA) を 20 年間延長の原則合意 (KPA) を締結したことを発表した。同地域は両国の海洋境界にまたがる。今回の KPA は、PSC ・UGSA を 2047 年 12 月 31 日まで延長する枠組を設定する。

シンガポール海事庁 (MPA) は、2025 年 4 月 10 日、シンガポール港湾での海洋燃料としての LNG 供給規模拡大に向けた関心表明手続き (EOI) で 14 件の提案を受領したことを発表した。18 社が EOI に参加した。8 件はバイオメタン、e-メタンのソリューションを含めていた。MPA は候補選定された企業と 2025 年後半までに海上での LNG 積み込みのトライアルを実施する。シンガポールでの海洋燃料としてのバイオメタン、e-メタン利用促進の計画も構築する。MPA はバイオメタン、e-メタン含めたバンカー供給ライセンス申請募集を 2026 年初までに見込んでいる。

タイ Gulf Energy 社は、2025 年 4 月 8 日、タイ証券取引所への提出書類にて、Map Ta Phut 工業港湾開発フェーズ 3 状況を報告した。Gulf Development 社 (70%) ・PTT Tank Terminal 社 (30%) 合弁事業 Gulf MTP LNG Terminal 社 (GMTP) は、35 年間の官民パートナーシップ (PPP) 契約を、本開発のためタイ工業用不動産公社 (IEAT) と締結した。GMTP は 4 月 4 日、埋め立て作業完了の公式通知を受けた。LNG 基地・気化設備含む上部構造の建設は 2025 年半ばに開始見込み。Gulf は年間 780 万トンの輸入に対応する LNG

シッパーライセンスを持つ。

インド GAIL 社は、2025 年 4 月 11 日、米国の LNG プロジェクトからの出資オプション付 LNG 調達について関心表明 (EOI) 招請を発行した。GAIL は LNG 輸出設備から FOB (本船渡し) 条件、当該プロジェクト出資オプション権付での、年間 100 万トン・15 年間の SPA (売買契約) 締結を希望している。生産容量年間 500 万トン未満のプロジェクトでは最大 26%、500 - 1000 万トンのプロジェクトでは 15%、1000 万トン超のプロジェクトでは 10% 出資を希望している。SPA が既存プロジェクトで締結される場合、引き取り開始は 2029 年または 2030 年を希望している。将来のプロジェクトの場合、契約は 2030 年発効すべきものとしている。この SPA への応札期限を 2025 年 4 月 28 日としている。

豪州の上流部門業界団体 Australian Energy Producers は、2025 年 4 月初め、野党自由党国民党連合による、東部市場での価格を人工的に下げるための同市場でのガス供給過剰状況創出計画は、より長期的に見て投資を阻害し、供給上の諸課題を悪化させるよろしくない形の市場介入となる、と述べた。

豪 Australia Pacific LNG (APLNG) は、2025 年 4 月 4 日、2025 年第 3 四半期分の EOI (関心表明手続き) を通じて、自国東部市場向けにガス供給追加 3 PJ をオファーしていることを発表した。2025 年既にオファー済みの追加ガス供給 80 PJ に上乗せする。APLNG は東部市場向け最大のガス供給者であり 2024 年 154 PJ、2025 年はここまでに 128 PJ (235 万トン) を供給することとなっている。

Shell ・ PetroChina (中国石油) が折半 (50/50) 所有する豪 Arrow Energy は、2025 年 4 月 7 日、Surat Gas Project (SGP) North における大規模なガス生産開発作業に着手したことを発表した。生産される天然ガスを近傍の処理設備に輸送する 30 km 以上のパイプライン建設が開始された。最大 450 本のガス生産井中、1 本目が 2025 年半ばに掘削開始予定で、2026 年までに生産開始が見込まれる。

Wärtsilä 社は、2025 年 4 月 9 日、Octopus Australia 社 Fulham Solar Battery Hybrid プロジェクトに 64 MW / 128 MWh 電力貯蔵システムを供給することを発表した。Fulham プロジェクトは、発電設備パフォーマンス基準 (GPS) 承認を 2024 年 6 月に確保し、豪州電力市場 (NEM) における大型の DC 組み込みのハイブリッドバッテリーシステムの初期の案件のひとつである。128 MWh DC 組み込みのバッテリーと 80 MW AC 太陽光発電設備を組み合わせる。現場建設は開始しており 2027 年完成見通しである。

豪 Santos 社は、2025 年 4 月 17 日、第 1 四半期業績報告にて、同期間に Moomba CCS は稼働し期待通り実績を發揮している、と述べた。最初の 6 ヶ月間の運転で CO₂ 換算 685,000 トン以上が安全・恒久型貯蔵へと注入された。

Wärtsilä 社は、2025 年 4 月 9 日、Wärtsilä 50DF デュアルフューエルエンジン向けに新たなメタンスリップ削減ソリューションを導入したことを発表した。Wärtsilä 50DF デュアルフューエル (DF) エンジンをスパークガス (SG) 運用に転換し、燃焼プロセスを最適化、効率を改善し、メタン排出を削減する。LNG で運用するこの新 'Spark Gas Conversion

for Wärtsilä 50DF' は、メタン排出を標準型 Wärtsilä 50DF エンジンと比較して 75%以上削減する。より最適化した燃焼プロセスのため電子制御される燃焼前室を設けることでメタン排出を最小化する。これより先に、Chevron が操業におけるカーボンインテンシティを削減するため同社 LNG 輸送船舶 6 隻の 1 エンジンを DF から SG に転換することが発表された。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 4 月 23 日、Scarborough ・ Pluto トレイン 2 プロジェクトは同期末時点で 82%完成 (Pluto 第 1 系列改造を除く) となった、と述べた。浮体生産設備 (FPU) 船殻は 2 件目のドライドックを出ており、上部構造は統合化作業に向けて、輸送用バージに搭載された。同期間中に、海底生産用ライザー設置が開始された。FPU 繫留用チェーンの設置準備作業が完了した。Pluto トレイン 2 現場作業は配管・配線の設置、プレコミッショニング作業準備に焦点を置いている。Pluto 第 1 系列改造は継続しており、モジュールヤードの建設活動は加速している。2025 年 2 月、Scarborough 沖合設備・幹線操業環境計画が規制機関により承認された。最初の LNG カーゴは、2026 年後半目標としている。

千代田化工建設株式会社は、2025 年 4 月 4 日、豪 Pilot Energy 社向け西オーストラリア州 CO₂ サプライチェーン構築に関する実現可能性調査業務の受注を発表した。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 4 月 23 日、パースの Hydrogen Refueller @H2Perth 稼働開始は 2025 年第 4 四半期を目標としている、と述べた。

豪 Santos 社は、2025 年 4 月 17 日、第 1 四半期業績報告にて、同期間に Barossa LNG は 95.2%完了、ガス輸送パイプライン・ダーウィンパイプライン複線化は完了、海底インフラストラクチャはほぼ敷設され、FPSO のシップヤードでのコミッショニング活動は 90%完了した、と述べた。生産井 4 本が掘削・完了され、5 本目は完了を残して中断、6 本目の掘削は進行中である。4 本からの生産で DLNG 全量生産量分のガスの引き渡しが可能となる。同プロジェクトは引き続き 2025 年第 3 四半期ガス生産開始の予定で進んでいるとのこと。

NOPSEMA (豪州沖合石油類安全・環境管理局) は、2025 年 4 月 22 日、Barossa 生産操業計画を承認した。FPSO 接続・コミッショニング活動は 2025 年前半の開始が期待される。この作業期間は 3 ヶ月見込みで、その後 FPSO 初期稼働開始となる。随伴する活動は 4 ヶ月間と見込まれる。安定生産は 2025 年第 3 四半期開始が計画され、25 年間継続する。

豪 Santos 社は、2025 年 4 月 17 日、第 1 四半期業績報告にて、同期間に Tamboran Resources 社との間で Beetaloo ガスについて、Santos が LNG 最大年間 1000 万トンまでの拡張に承認を受けているダーウィンを通じての輸出オプションを検討する MOU (覚書) を締結した、と述べた。

[北米]

DOE (米連邦エネルギー省) は、2025 年 4 月 1 日、承認された LNG 輸出者が、承認され

たプロジェクトの輸出開始日延長申請を DOE が審査するために厳しい基準を満たすことを義務付けていた前政権時代の政策文書を撤回したことを発表した。DOE は非 FTA (米国と自由貿易協定を締結していない) 諸国向けの輸出承認の輸出開始日延長申請を、DOE が申請許可を検討する前に当該輸出プロジェクトが建設中となっていること、許可保持者が自社のコントロール外の酌量すべき事情により 7 年以内に輸出開始できないことを実証する必要等の厳しい基準を承認された輸出者に義務付けるのではなく、ケースバイケースで審査する形に戻すとしている。

USTR (米通商代表部) は、2025 年 4 月 17 日、「米造船を再建し、中国による海洋、ロジスティクス、造船部門を支配するための不合理な行動、政策、プラクティスに対処する具体的措置」を発行したことを発表した。最初の 180 日間に適用する課金はゼロとする。「第 1 段階として、180 日以降、中国の船主・運航者への課金は米国への航海の度に、純トン数に基づき、その後年次で増加する」。さらに「第 2 段階の措置は、3 年間は適用しない。米国での建造 LNG 輸送船舶の誘因とするため、外国船の LNG 輸送に限定的な制限をかける。この制限は、22 年間で段階的に増加する」としている。

米国コーパスクリスティ港湾は、2025 年 4 月 16 日、同港湾およびその顧客 (利用者) が、2025 年第 1 四半期に、コーパスクリスティ航路を通じて、5130 万トンのコモディティを輸送し、この内 LNG は 430 万トンで前年同期比 12.3%増だったことを発表した。

Cheniere 子会社 Corpus Christi Liquefaction 社は、2025 年 4 月 16 日、FERC (連邦エネルギー規制委員会) に、ミッドスケール第 8 & 9 系列プロジェクトの用地準備作業開始許可を申請した。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 4 月 4 日、Freeport LNG に対して、Noble Gas (ヘリウム) プロジェクトの建設完了・稼働開始までの期限を、5 月 31 日まで延長することを許可した。2020 年 5 月、同社は同プロジェクトの立地・建設・操業に関して FERC に許可申請を提出した。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 4 月 3 日、Calcasieu Pass LNG 設備の残された部分の稼働開始に関する Venture Global 社の申請を承認した。

米 Venture Global 社は、2025 年 4 月 15 日、自社最初の LNG 輸出プロジェクト Calcasieu Pass の商業稼働開始期日、低コスト LNG の同プロジェクト長期買主向け販売の開始を発表した。Calcasieu Pass がこのマイルストーンに FID (最終投資決定) から 68 ヶ月後に到達し、最速完成の新規プロジェクトのひとつとなった、と述べた。この発表によると、多数のミッドスケール・モジュラー液化・プロセス設備を順次引き渡し設置する構成および Venture Global によるオーナー主導の建設手法により、グローバルのパンデミック、2 件のハリケーン、設備のパワーアイランド (電力供給拠点) の製造上の問題により生じたフォースマジュールなど大きな予測されていなかった諸課題を克服することができたとのこと。同プロジェクトは、固有の設計に伴う複合化を支える主要要素の数年にまたがる修正と修復を完了した。Calcasieu Pass の長期 SPAs (売買契約) は、世界でも買主にとり最

も魅力ある価格方式に含まれ、平均液化手数料は 100 万 Btu 当たり 2 米ドルを下回っているとしている。

Venture Global 社が 2025 年 4 月 3 日に SEC (米連邦証券取引委員会) に提出した 10-K 年次報告によると、同社が買主との現在進行中の、あるいは将来の仲裁手続きで不調になる場合、自社が義務付けられる支払い額が巨額となる可能性があり、あるいは自社のポスト COD (商業稼働開始) 条件の SPAs (売買契約) の一部が打ち切りとなる可能性があるとしている。

10-K によると、Venture Global 社 CP2 創業時 SPAs (売買契約) は、買主・自社にとり有利な打ち切り権を含んでいる。特定の前提条件が同社により満足されない場合、あるいは同社が全ての LNG 輸出承認を受けるまでの期日に買主が特定前提条件を放棄する場合である。Venture Global は CP2 創業時 SPA 買主全てと延長を交渉しているとのこと。

10-K によると、Venture Global 社は SPAs (売買契約) を買主と、CP2、CP3、Delta プロジェクトあるいは既存プロジェクトの可能性ある拡張に関して見込まれる公称設計全容量について、確保しているわけではない。CP3 プロジェクトに関して、FERC (連邦エネルギー規制委員会)、DOE (連邦エネルギー省) 申請もされておらず、必要な承認は確保されていない。

NextDecade 社は、2025 年 4 月 8 日、20 年間の LNG SPA (売買契約) を Aramco 子会社と Rio Grande LNG 設備第 4 系列からの引き取りについて締結したことを発表した。年間 120 万トンの LNG を、20 年間、FOB (本船渡し) 条件で、ヘンリーハブ連動価格で、第 4 系列への FID (最終投資決定) を条件として、購入することとなる。

NextDecade 社は、2025 年 4 月 14 日、TotalEnergies 社が Rio Grande LNG 設備第 4 系列での LNG 購入オプション権を行使し、両社の子会社が同系列からの引き取りに関して長期 LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。TotalEnergies Gas & Power North America 社は、年間 150 万トンの LNG を 20 年間、FOB (本船渡し) 条件、ヘンリーハブ連動価格で、購入する。第 4 系列 FID (最終投資決定) が条件となる。

豪 Woodside Energy 社、投資会社 Stonepeak は、2025 年 4 月 7 日、Stonepeak が米 Louisiana LNG Infrastructure 社 (InfraCo) 株式を取得する契約を締結したことを発表した。Stonepeak は InfraCo の 40% を持つこととなり、残り 60% は、Woodside 傘下の持株会社 Louisiana LNG 社 (HoldCo) が所有する。InfraCo は Bechtel EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を持ち、FID (最終投資決定) を条件として、液化インフラストラクチャ、共通諸設備を所有・建設することとなる。取引期日は 2025 年 1 月 1 日付、クロージング目標は 2025 年第 2 四半期となっている。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 4 月 17 日、LNG SPAs (売買契約) をドイツ Uniper 社と締結したことを発表した。米 Louisiana LNG 社が年間 100 万トンの LNG を、FOB (本船渡し) 条件で、Louisiana LNG コマーシャル稼働開始期日 (COD) から最長 13 年間供給する。Woodside Energy Trading Singapore 社は、最大年間 100 万トンの LNG を、DES

(持ち届け ex-ship) 条件で、Woodside のグローバルポートフォリオより欧州へ、Louisiana LNG の COD から 2039 年までの期間供給する。これら SPAs は、Woodside による Louisiana LNG 初期プロジェクト 3 系列・年間 1650 万トン開発への FID (最終投資決定) が条件となる。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 4 月 23 日、Louisiana LNG プロジェクトに関して、第 1・2 系列の高価値発注、主要購入発注 (機器・バルク資材) が公表された、と述べた。第 3 系列についても購入発注がなされた。Woodside は Louisiana LNG 出資参加分をさらに売却する話し合いを進めている。「Louisiana LNG は保税地域を有し、各 LNG 系列の完成まで、関税支払いを延期することができる。関税発表の影響を分析しており、Louisiana LNG にとっての追加的な貿易手段を検討している。Louisiana LNG の推定資本的支出の 25%が資機材で、現時点でこの内半分が米国から調達される見込み」。

Energy Transfer 社、MidOcean Energy 社は、2025 年 4 月 9 日、Energy Transfer 子会社 Energy Transfer LNG Export 社が EIG Global Energy Partners 傘下の MidOcean と Lake Charles LNG プロジェクトに関わる HOA (基本合意) を締結したことを発表した。同プロジェクト共同開発の主要条件の非拘束の枠組を設定する。MidOcean は建設コストの 30%資金負担にコミットし、LNG 生産の 30%を受け取る権利を得る。

Honeywell 社は、2025 年 4 月 22 日、Argent LNG との間で、ルイジアナ州 Port Fourchon に建設すべき LNG 輸出設備での Honeywell 前処理ソリューションの利用について検討する契約を締結したことを発表した。

アブダビ Mubadala Energy 社は、2025 年 4 月 10 日、Kimmeridge 傘下の SoTex HoldCo 社の 24.1%株式を、新株式発行により取得する契約を締結したことを発表した。SoTex は、その傘下に、テキサス州南部 Eagle Ford の上流非在来型ガスビジネスを行う Kimmeridge Texas Gas、ルイジアナ州カルカシュー運河河口に年間 930 万トン・FID 前 LNG 液化・輸出設備を持つ Commonwealth LNG を抱える。Commonwealth LNG は 2025 年 FID を控え、主要作業を固めつつあり、2029 年同 LNG 設備からの引き取り開始を計画している。

東京ガス株式会社、Chevron 社は、2025 年 3 月 31 日 - 4 月 1 日、東京ガスがその 100% 子会社の東京ガスアメリカ社が出資する TG ナチュラル・リソースズ社 (TGNR) を通じて、Chevron 社の東テキサス地域におけるシェールガス資産の 70%を買い取る契約を締結したことを発表した。TGNR は取得対価として、先行して 75 百万米ドル、開発に応じて複数年かけて段階的に 450 百万米ドルを支払うことで、TGNR 社のキャッシュフロー内で資産を取得する。東京ガスは、本契約について、静岡ガス株式会社への 130 百万米ドルでの Eagle Ford 層シェールガス権益の譲渡も含め、東京ガスの資産効率向上を目的とした資産ポートフォリオ見直しの一環で取り組んでいるものとしている。

株式会社 JERA は、2025 年 4 月 9 日、CF Industries および三井物産株式会社とともに、米国ルイジアナ州における低炭素アンモニアの製造プロジェクト「Blue Point」の FID

(最終投資決定) を行ったことを発表した。生産能力年間 140 万トンの低炭素アンモニア製造拠点を開発するもので、天然ガスを原料としてアンモニアを製造し、製造過程で発生した CO₂ は回収し、輸送・貯留するとしている。総事業費は 40 億米ドル (6000 億円) で、JERA は 35%を出資するとともに、出資者としてアンモニアを引き取り、欧州やアジア等に向けて広く供給していく予定としている。生産開始時期は 2029 年 (予定) としている。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 4 月 23 日、米テキサス州 Beaumont New Ammonia 第 1 系列建設は、同四半期末時点で 90%完成し、引き続き同年後半生産開始に向け予定通り進んでおり、プレコミッショニング作業を同第 2 四半期に見込んでいることを明らかにした。

Alaska LNG Project 社は、2025 年 3 月 28 日、Alaska LNG プロジェクト進捗状況を示す半期報告書を提出した。AGDC (アラスカ州ガスライン開発公社) は、FEED (基本設計) 段階への資金調達過程にある。潜在投資家は、FEED に必要な資金拠出を検討するためデューデリジェンスを実施している。2025 年 3 月、AGDC 代表者達は台湾、タイ、韓国、日本を訪問した。2025 年 3 月 27 日、AGDC は Glenfarne 社子会社と、プロジェクト主開発者となってもらふ諸契約を締結したことを発表した。AGDC による FERC 提出文書、FERC が発行した最終環境影響評価 (EIS) に基づくと、同プロジェクトは建設開始から 6 年後に稼働開始となり得る。Alaska LNG Project 社は、LNG 長期輸出に伴う長期契約、あるいは長期供給契約を何も締結していない。

カナダ LNG Canada は、2025 年 4 月 2 日、LNG 輸送船舶 Maran Gas Roxana が、キティマットの LNG Canada 設備に、設備試験運転のため使われるように荷卸されるカーゴを積載して到着したことを発表した。

カナダ Cedar LNG は、2025 年 4 月 4 日、Ledcor Haisla Limited Partnership (LHLP) をプロジェクトのパイプライン建設に選定した、と述べた。Haisla Nation ・ Ledcor がキティマット地域の諸プロジェクト請負のため 10 年前に設立した。パイプライン建設は 2025 年第 2 四半期開始を見込む。Cedar LNG が 2024 年 6 月 FID (最終投資決定) をして以降、海洋設備用地・パイプライン経路の整備は完了している。海洋設備建設は 2025 年第 2 四半期開始を見込む。浮体 LNG 設備開発は海外にて進行中で、2028 年末のプロジェクト営業開始を見込んでいる。

エネルギー・インフラストラクチャ企業 Sahara 社は、2025 年 4 月 16 日、シンガポール企業 LNG Alliance のメキシコ子会社 Amigo LNG と、20 年間の LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。Sahara は、年間 60 万トンの LNG を、Amigo LNG のメキシコのソノラ州グアイマスの輸出設備から購入する。LNG 引き渡しは、2028 年第 3 四半期に開始予定。Amigo LNG の年間 780 万トン輸出設備は、2 系列からなる。

[中東]

アブダビ ADNOC は、2025 年 4 月 16 日、15 年間の LNG SPA (売買契約) を三井物産と

の間で締結したことを明らかにした。最大年間 60 万トンの LNG を Ruwais LNG プロジェクトから引き渡す。

アブダビ ADNOC、中国 ENN (新奥能源) は、それぞれ 2025 年 4 月 18 日・21 日、15 年間の LNG SPA を締結したことを明らかにした。ENN によると、ADNOC は年間 100 万トンの LNG を ENN に供給する。この LNG は主として ADNOC の Ruwais LNG プロジェクトから調達されることとなる。

[アフリカ]

bp 社は、2025 年 4 月 17 日、モーリタニア・セネガル沖 GTA フェーズ 1 プロジェクトから輸出のため初 LNG カーゴを積み込んだことを発表した。この初カーゴは bp にとり 2025 年 3 件目の上流部門重要プロジェクト稼働開始である。10 km 沖 FLNG (浮体 LNG 生産) 船舶より、輸送船舶へと積み込まれた。GTA はアフリカ最深洋上開発のひとつで、ガス資源は最大水深 2,850 m のところに及ぶ。GTA フェーズ 1 は、LNG 年間 240 万トンの生産見込みとともに、両国国内市場にもガスが配分される。

Perenco 子会社 Dixstone は、2025 年 4 月 3 日、ガボンのキャップロペスでの新規 LNG プロジェクトの建設・調達・統合化業務を受注したことを発表した。ニアショア型 LNG 設備で、年間 70 万トンの LNG、年間 25,000 トンの LPG を生産することとなる (フェーズ 1)。貯蔵容量は旧ガスタンカーを FSU 改造して 137,000 m³ となる。Dixstone はドバイで液化バージを建造する。

モザンビーク閣議は、2025 年 4 月 8 日、沖合 Coral Norte FLNG プロジェクト開発計画を承認した。この発表によると Coral Norte FLNG 浮体プラットフォームは、Coral Sul FLNG 型の複製となる。投資額は 72 億米ドルと試算されている。Rovuma 盆地第 4 鉱区企業連合 Mozambique Rovuma Venture (MRV) は、Eni、ExxonMobil、CNPC (中国石油集団) が含まれ 70% を所有する。ENH、Galp、KOGAS (韓国ガス公社) は各 10% を持つ。

[欧州・周辺地域]

- 欧州連合理事会は、加盟国代表が 2025 年 4 月 11 日にガス貯蔵規制の修正に関する同理事会の方針を承認したことを発表した。理事会案はガス貯蔵規則の 2 年間延長に合意しつつ、変化する市場環境に適応し市場操作の可能性にも対応する追加のフレキシビリティを加盟国に与える修正を織り込むものである。本テキストは、最終法形態への欧州議会との交渉原案となる。欧州委員会は、冬季前にガス貯蔵設備を 90% 満杯とする加盟国の現在の義務を 2 年間延長することを提案した。EU 理事会案は、加盟国に追加的フレキシビリティを提供するための修正を導入する。変化する環境に対応し、最善の購入条件を活かせるために役立つものとなる。90% 充填目標は、現在の 11 月 1 日期限でなく、10 月 1 日から 12 月 1 日の間のいずれかの時点で達成すべきものとする。2 月、5 月、7 月、9 月の各加盟国の中間貯蔵目標は、参考値であることを明確にする。

加盟国は充填目標から最大 10%逸脱してもよい。委員会はこの逸脱幅を（附則により）さらに拡大してよい。国内ガス生産が前 2 年間について平均年間生産量を上回っている場合あるいは 40 TWh 超の容量の貯蔵設備への注入が遅い場合加盟国は充填目標を最大 5%逸脱できる。後者のフレキシビリティは域内ガス市場の機能振りあるいは直接接続している加盟国が保護されるべき顧客へのガス供給力に悪影響しない限り用いることができる。議会側が自身の案に関して採択後、5 月に新規制に関する交渉が開始される見込み。理事会・議会間で仮合意が達せられれば、両機関公式支持後に発効する。

- フランスのメンブレン型積載方式の専門企業 GTT は、2025 年 4 月 17 日、同年第 1 四半期の業績を発表した。9 隻の LNG 輸送船舶、7 隻の超大型エタン輸送船舶が含まれる。引き渡しは 2027 年から 2031 年とされる。燃料としての LNG について、GTT はコンテナ船 12 隻の予約を受けた。
- Worley 社は、2025 年 4 月 3 日、ドイツ Deutsche Energy Terminal (DET) 社より、ブルンスビュッテル Brunsbüttel FSRU (浮体貯蔵・帰化設備) 基地フェーズ 2 に関わる契約を受注したことを発表した。Worley は、建設・設置・コミッションング業務を提供することとなる。これと別に Worley はエンジニアリング・調達業務を提供している。DET はドイツ連邦政府が所有する企業である。Worley のフェーズ 2 作業範囲は、恒久型栈橋・随伴輸入諸設備の設置を内容とする。
- オランダ Hakkers Waterbouw 社は、2025 年 4 月 14 日、Ballast Nedam Infra 社とともに、ドイツ ブルンスビュッテルの新規 LNG 基地の栈橋を建設する、と発表した。German LNG 社に代行して発注されたもので、主建設請負会社 CS Gas North を介して孫請けとして実施される。
- IEA は、2025 年 4 月 7 日に公表したドイツについての新規のエネルギー政策審査にて、天然ガスがエネルギートランジションにて果たすことが期待される役割に関して明確化することを同国に提言している。同国政府のガス多様化戦略は、LNG 輸入基地を、将来水素を受け入れるよう転換することができることに基づいていた。ドイツは最近、建物部門でヒートポンプ、地域暖房により天然ガス依存を下げる明確なロードマップを構築したが、工業・発電部門は天然ガスの役割に不確実性に直面している、とのこと。
- Wärtsilä 社は、2025 年 4 月 3 日、Wärtsilä Gas Solutions がフィンランドの大規模バイオガスプロジェクト 2 件に、バイオ LNG 生産ソリューションを供給・設置することを発表した。Suomen Lantakaasu 社の発注で、同社はバイオメタン企業 St1 Biokraft、食品企業 Valio 間の合弁事業である。両プロジェクトは、バイオ LNG 日量 25 トンの生産容量を持つ。このバイオガスの原料は主に肥料と食品加工廃棄物となる。残留物は、肥料を供給する農家が使用する無臭のバイオ肥料となる。
- イタリア Snam 社は、2025 年 4 月 4 日、3 月末時点のイタリアのガス貯蔵量が、前年同期の 58.4%に比して、充填率 42%となったことを明らかにした。充填率 90%実現のために 9.4 bcm の注入が必要となる。市場参加企業に対しては、冬季期待価格と夏季

の価格差がマイナスとなる場合に、充填へのインセンティブが用意されている。

- イタリア Snam 社は、2025 年 4 月 8 日、2 月 28 日以降 Punta Marina 沖 8.5 km に繋留された気化設備 BW Singapore が、稼働開始準備完了している、と述べた。米国産 LNG 最初のカーゴが Flex Artemis に積載され 4 月 3 日に到着し、5 月初旬予定の本格稼働第 1 段階に向けてコミッションング活動が始まった。BW Singapore 気化設備は、2022 年 7 月に Snam が買い取った。
- ギリシャ DESFA 社は、2025 年 4 月 10 日、自国の天然ガス消費は同第 1 四半期、前年同期比 28.61%増加したことを発表した。発電部門がこの増加を主導し、前年同期比 48.11%増加し、国内消費の 64%を占めた。
- ロシア Gazprom は、2025 年 4 月 4 日、Power of Siberia ガスパイプライン定期メンテナンス作業が 3 月 28 日から 4 月 4 日、初めてガス供給をストップすることなく実施されたことを明らかにした。中国側の要請により、Gazprom はこの期間中、両社間で合意された数量のガス供給を続ける形でメンテナンスを段取りした。
- ロシア Gazprom は、2025 年 4 月 22 日、「Белогорск-Хабаровск」ガスパイプラインの建設が予定通り進行し、37.6%、すなわち 828 km 中 356 km のガスパイプラインが敷設されている、と述べた。

[南米]

イタリア Eni 社は、2025 年 4 月 14 日、アルゼンチン YPF と、Argentina LNG プロジェクトへの Eni の参加を検討するため MoU (覚書) を締結したことを発表した。今回の発表によると、Argentina LNG は Vaca Muerta 陸上ガス田の資源を開発し、数フェーズを通じて 2020 年代末までに最大年間 3000 万トンの LNG を輸出するように計画されている。今回の MoU で対象とするフェーズは、年間 600 万トンの浮体 LNG 生産設備 2 基により合計年間 1200 万トン分の上流・輸送・液化設備開発である。

アルゼンチンはボリビア YPFB (Yacimientos Petrolíferos Fiscales Bolivianos) 社のインフラストラクチャを介してのブラジル向け天然ガス輸出を初めて開始した。

bp Trinidad and Tobago (bpTT) 社は、2025 年 4 月 3 日、Cyprus 開発より最初のガスが生産されたことを確認した。Cyprus は、上流部門成長のリセット戦略の一環として発表した 2025 年から 2027 年に世界全体で稼働開始を見込む bp にとっての 10 件の主要プロジェクトの 1 件である。また Cyprus は bpTT の 3 件目の海底開発である。生産井 7 本を bpTT の既存 Juniper プラットフォームに接続することとなる。ピーク時点で、日量石油換算 45,000 バレル相当 (2.50 億標準立方フィート) 生産する見込み。この開発の最初のフェーズは、生産井 4 本で、2024 年末に完成した。第 2 フェーズは、2025 年後半に開始見込み。Cyprus は、bp にとりエジプト沖 Raven ガス田第 2 フェーズ生産開始に続く 2025 年 2 件目の大型稼働開始案件である。Cyprus ガス田は、トリニダード南東 78 km、East Mayaro 鉱区内・水深 80 m に位置する。Cyprus は 100%を bpTT が所有する。同社は bp (70%)、

Repsol (30%) が所有する。

トリニダードトバゴのエネルギー業界協会は、2025 年 4 月 8 日、Dragon、Cocuina ガス田の OFAC (米海外資産管理局) 特別ライセンス 2 件が米政府により取り消しとなったことを明らかにした。同協会は、ベネズエラからのパイプラインでのガス輸入、その後の LNG あるいは石化製品での国際市場への販売が、トリニダードトバゴにとって引き続き重要な機会であると述べた。同協会は、この機会を追求するメカニズムを見出すべくトリニダードトバゴ政府が米、ベネズエラ政府に働きかけ続けることが重要としている。同協会は、トリニダードトバゴ排他的経済水域内に天然ガス田を開発する機会が豊富にあり、それらは活発かつ迅速に追求しなくてはならない、としている。

TotalEnergies 社は、2025 年 4 月 15 日、ドミニカ共和国 AES Dominicana ・ Energas 間の合弁事業 Energia Natural Dominicana (ENADOM) と、年間 400,000 トン、2027 年半ば開始で 15 年間、価格はヘンリーハブ連動の LNG 供給に関しての HoA (基本合意) を締結したことを発表した。これにより ENADOM は天然ガスを建設中の 470 MW コンバインドサイクル発電設備に供給できることとなる。

[グローバル]

IMO (国際海事機関) は、2025 年 4 月 11 日、7-11 日の MEPC 83 (第 83 回海洋環境保護委員会) にて承認されたグローバル海運ネットゼロ規制策は、船舶の新たな燃料基準、排出価格メカニズムを含むことを発表した。この諸策は、2025 年 10 月に公式採択、2027 年に発効の見通しであり、5,000 総トン以上の大型外航船に義務化されるとしている。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp